

たまたま見つけた古ハイルーフVANを バンセールスするコマーシャルカーに!!

NISSAN E24 CARAVAN

荷室の左サイドには2×4材で作ったラックをヘビーウェイトに耐えるスライドレールと一体化して配置。スライドを引き出せば車外でも展示用品をゆっくり見ることが可能になっている。また、室内には角パイプを使ってフレームを設置して、高い位置まで幅広い商品を陳列できる構造としているのも特徴。荷室全高は1810mm、荷室全幅は1535mm、荷室全長は2985mmととても広々としているので、キャビン内に入って工具を品定めするのも余裕なのだ!

先日開催されたSBM2025関西（次号詳細レポート）でも台数が増えてきた商用車カスタムの新潮流“バン・ストレージ”。簡単に言うと荷室をカッコよく、使えるようにするカスタムってことで、今回は職人さんのお仕事クルマとはちょっと異なる移動セールスバン・ストレージをフィーチャー!

商用車カスタムの新潮流

バン・ストレージ VAN STORAGE



ボディ左後方にラッピングされているキャラクターは実は黄海社長(左)とスタッフの坂本サン(右)がモデル。そのタッチに惚れ込んだイラストレーターに依頼して製作したお気に入りポイントなり。

黄海インターナショナルはショールームを持たず、通販販売が基本で、このクルマで納品や営業にフル活用。足元はオープンカントリー+純正流用スチールで武骨にキメる。



ミルウォーキー自慢のモジュラー式収納システムであるバックアウト。さまざまな収納パーツを組み合わせで用いることができ、昨今大人気だ。ほかにも電動工具などを見栄え良くディスプレイ。キャラバンの車内はさながらショールームに♪



観音開きにただようそこはかたないアメリカ感♥

購入時からサンドカラーだったというベース色を生かして、ブランドロゴやイメージキャラクターのラッピングを施し(普段は店舗デザインを手がける会社にラッピングをオーダー)アピール度を倍増した。あえてスチールホイールを残したのも働くクルマをイメージしてのこと。



ハイルーフで観音開きの仕様のE24が日産純正で設定のあったカタログモデルというのも驚き! スーパーハイルーフの先端にまで伸びる超ロング&観音開きの扉構造がワイルド&アメリカンなたたずまい。



E24時代だとハイルーフ=スーパーロングボディと相場は決まっていた。しかしこのモデルはスーパーハイルーフ×ロングなのが斬新。室内高は1810mmあり、身長177cmの筆者も室内をラクラク立って歩けるサイズ。ルーフは内側から見るとFRP製なのかわかる、また観音開きのリアゲートとの接合部分もこのクルマだけに開発された特殊パーツなのがかい知れる。



右側壁面上段には電動工具類、中段にはマウンティングプレート、さらに左側の壁面は積車関連のパーツ群をスライド棚に展示している。スライド棚の裏側にも小物を引っかける場所を作り、無駄のない収納・展示が行えるよう設計。

●ベースカー/キャラバン・ロング・スーパーハイルーフ 1992年型
●協力/黄海インターナショナル ☎029-896-3190 www.kiumi-intl.com
●Special Thanks/TOP MOUNTAIN、インクリースガレージ、株式会社R.P.M
PHOTO/ノグチケイスケ TEXT/土田康弘

ミルウォーキーやジャダーといった海外製の製品を取り扱う黄海(キウミ)インターナショナルが、自社の営業車として活用しているのがE24キャラバン。しかし、そんなE24のラゲッジを見ると、黄海インターナショナルが取り扱うミルウォーキーの工具をはじめ、積車用品などの輸入ブランドアイテムがズラリと展示。2×4材を使ったスライド棚を設けることで、車内&車外でゆっくりアイテムを見せることもできるストレージにカスタムされている。外装は購入時すでにオールペン済みだったというサンドカラーのボディ色を生かしつつ、ポップなラッピングを施してコマーシャルバン仕立てに。オープンカントリー&ブラックスチールホイールの足元も相まって、営業車というよりもアウトドアカー的な風情である。営業先だけでなく、いたるところで声をかけられることがあるそうで、インパクト・実用性ともに営業車として申し分ない活躍を見せているようだ。